

心電図検査

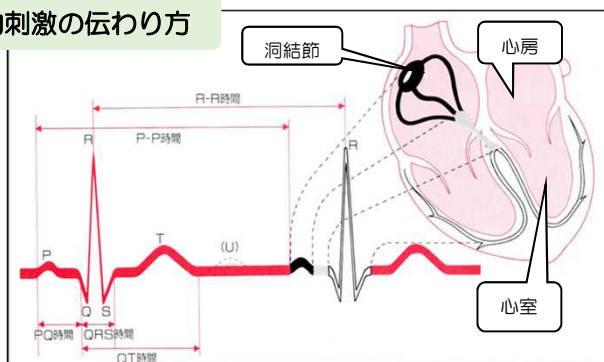
心電図は、心臓の電氣的刺激の伝わり方と、その刺激によって心筋が収縮した際に生じる電気（活動電位）を、両手足と胸部に付けた10個の電極から導き出して、波形として描いたものです。



心臓は血液を肺と全身に送り出すポンプの役割をしています。ほぼ握りこぶしの大きさで、右心房、右心室、左心房、左心室という4つの部屋からできていて、心房と心室の間には弁があります。

全身から大静脈を通して心臓に戻ってきた血液は、まず右心房から右心室を通して、肺動脈から肺へと送られます。肺で二酸化炭素を放出し、酸素を取り込み、血液は肺静脈を通して、今度は左心房に戻ります（これを肺循環と呼びます）そして、血液は左心房から左心室へと送られ左心室の収縮によって全身に送り出されます（これを大循環と呼びます）

心臓の電氣的刺激の伝わり方



1. 洞結節で生じた電氣的刺激が心房内を伝わることで、**P波**を生じます。
2. 心房を通った電氣的刺激は、房室結節部を通して心室へと伝わります。房室結節部を通る時間が**PQ(PRI)間隔**で表されます。
3. 心室へ入った電氣的刺激は左右の心室を隔てる心室中隔の中を通して心室の筋肉に伝わり、**QRS波**を生じます。
4. 心室の興奮が引いていくときに**T波**を生じます。

心電図は、不整脈や心筋障害、虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞）などの心疾患の発見に役立てられています。

しかし心電図は検査時の心臓の電氣的活動だけを見ているため、心臓の異常がすべて分かる訳ではありません。「要精密検査」の場合、無症状であっても必ず受診が必要です。